

決算特別委員会で質問

市民の安全にかかわる消火器の規格・点検基準、市有財産の有効活用、ボランティアに対する助成金のあり方、プール事業の検証等、7項目に亘って質問。実りある答弁を引き出しました。

○消火器破裂事故の防止図れ！



点検せずに長期間放置された古い消火器を操作・廃棄処理をしようとした際に、消火器が破裂し怪我をする事故が近年発生しています。

国は平成23年1月「消火器の規格・点検基準の改正」を行い、業務用消火器に対して、加圧式から蓄圧式への移行や、製造年から10年を経過した消火器には、耐圧性能点検を義務付しました。(家庭用は対象外)

工場やマンション等に備え付けられている消火器も対象となっていることから、市民への周知が図られていないことを指摘、あらゆる手段で広報を行うよう求めました。

消防局長は「ホームページをはじめ、市政だよりや点検の折々に広報する」ことを約束。また学校関係には約5800本の消火器中、10年を超えているものは1900本にも上ることが明らかになり、速やかな対応を教育長に求めたところ「10年を超えるものについては今年度中に交換し、今後期限がきたものに関しては順次交換する」と答弁しました。

○下水道埋め立て道路の活用図れ！

市内には113カ所6100㎡の河川不法占拠があり、水路・道路については来年度予算で調査することが質問で明らかになりました。

道路などの不法占拠により、車等が通行できない箇所についての早期対応と、下水道埋め立て等による新たな有効スペースの活用策を提案しました。開渠が無くなることにより地続きとなり、駐車場等への転用が可能になるため、許可による使用料徴収を行うことで、公平性と財政への貢献を図ることができます。

建設緑政局長は「不法占拠については専門の部課を設け、平成18・19年と拡大を図り、取り組んでまいりましたが、新たに過去に遡及する制度の導入を考えている」と答弁。また「各々の経緯が異なるため、今後も道路公園センターと連携を図りながら不法占拠対策を推進していく」と答弁しました。



○被災地への継続支援図れ！！

川崎市民活動センターが行っているボランティア支援「防災ボランティア活動助成金」について質問。

平成23年度は15件80万円ほどの実績がありましたが、今年度は若干の調整中はあるものの、助成は未だゼロ。制度のあり方と運用の改善を求めました。

この助成金制度は、1災害につき活動に掛かる経費の1/2を限度として上限10万円の助成が受けられるもので、ボランティアバスの運行経費や高速代などに利用できるもの。

昨年の利用団体から今年度もボランティアバスの運行を企画したところ、1災害1回とされていたため却下されたとの相談を受けたことからの質問。

このたびの災害においては、広域かつ甚大であることから継続的支援の必要性を訴え、年度ごとの助成制度に変更すべきと質しました。

市民局長は「現在市民活動センターにおいて運用方法を検討中であり、連携を図りながら改善する」答弁しました。





市政にあなたの声を!!

ごあいさつ

5回目となる東北釜石ボランティアに参加しました。地元では震災の風化が懸念されています。復興はまだ進まず、震災避難者のかたがたからは、不安の声が絶えません。

継続的支援を行うとともに、現場主義を貫いてまいります。「大衆とともに」の公明党指針から50年。決意新たに皆さまの声を実現するべく働いてまいります。

今後もこれまで以上のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

《カーブミラー設置 鶴見区にも!》

鶴見区の事故多発交差点に幸区民の要望でカーブミラーを設置しました。川崎市議から横浜市議へ、これらもネットワークで要望実現に取り組みます。



○江ヶ崎跨線橋いよいよ来年3月開通へ!



ぬまざわ議員の質問に対し建設緑政局長は、跨線橋の架け替え工事が当初計画から2年遅れで来年3月完成することを明らかにしました。

横浜側の交差点については、右折専用車線を設け、歩車分離の検討を行っていることも判明。小倉側には、以前から求めていた「かながわの橋100選」の名残りを後世に伝えるためのオブジェの設置も決定しています。

さらに小倉陸橋の塚越側の渋滞を指摘し、歩車分離による改善を求めました。

架け替えの署名をいただいた皆さんに感謝です。

○入江崎余熱プール事業費の黒字化図れ!

環境局所管の麻生区王禅寺・川崎区堤根余熱利用プールは、平成21年度から指定管理者を変更、当該年度から黒字化を達成、業績を伸ばしています。市民局所管の市民プラザは今年度から指定管理者を導入し、今後の経営改善が期待されています。

一方で上下水道局所管の川崎区入江崎余熱プールにおいては、指定管理者が導入されてからは、年間3800万円ほどの赤字が1800万円ほどに縮減されたものの、依然一般会計からの繰り出し金に依存しているため、改善を求めました。

事業管理者は「今後更なる事業改善を行い、黒字化に向けて指定管理者と協議する」と答弁。さらに「他施設は老人休養施設やトレーニングルーム等が併設されていることから、整備の可能性について検討する」との姿勢を示しました。



○釜石ボランティアに参加!



昨年に引き続き、市社会福祉協議会主催のボランティアバスが8月運行され参加しました。小規模復興支援住宅では、支援が行き届いていない箇所がまだまだ多く、仮設住宅にいつまでいなければならないか、住民の不安は募るばかりです。今回は交通不便な山間部にある住宅への炊き出し支援と海岸清掃でした。

地元のかたがたとの交流という意味では、調理に手が掛かりすぎなどの課題がありましたが、川崎市民の手によるボランティアのネットワークが構築されてきたのが実感です。

○市民体育館と教育文化会館を改築へ!!

大勢の市民のかたに利用されてきた市民体育館と教育文化会館が「(仮称)市民アリーナ」として生まれ変わります。現在の体育館側にPF手法を用いて整備されることが質問でも明らかになりました。

民間の力を利用して行政負担を平準化し、整備後の維持管理も民間で行われます。2000人規模のホールと1000人の観客が入れる体育館が平成29年度完成に向けて一体整備されます。

介護・住宅・医療など

暮らしの相談お気軽に!

TEL(599)3984
FAX(588)3222

Mail to k-numa@numa-k.com